

2023年4月9日
イースター礼拝

聖書

ルカ福音書23章39～43節

十字架にかけられていた犯罪人のひとはイエスに悪口を
言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」
と言った。

23:40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて
言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰
を受けているではないか。

23:41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだ
からあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかつた
のだ。」

23:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」

23:43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

説教

あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。

ルカ23章43節

2023年の復活祭、イースターの礼拝をこころから
お献げしましょう。

イエス様は十字架上で7つのことばを発せられました。

①ルカ23:34

そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

②23:43 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

③ ヨハネ19:25

イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。19:26 イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。19:27 それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。

④ マタイ27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。
「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが
神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という
意味である。

⑤ ヨハネ19:28 「わたしは渴く」と言われた。

⑥ 19:30 イエスは酸いぶどう酒を受けると、
「完了した」と言われた。

⑦ ルカ23:46 イエスは大声で叫ばれた。
「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」

前半の3つのことばは十字架の苦しみの中からも人のため、隣の強盗、十字架の下にいる母マリヤや弟子ヨハネに向かって愛のことばを語っています。

後半の4つのことばはこの地上に遣わされた神に向かって、地上での使命を果たし終えたことを叫んでいます。

今日はその中で二番目のことば、
強盗に語られたことばに注目しましょう。

イエスは彼に言われた。
「まことに、あなたに言います。あなたは今日、
わたしとともにパラダイスにいます。」

金曜日、ゴルゴダの丘の上に
三本の十字架が立てられました。
真ん中にイエス様、
その両脇に2人の強盗。
一人の強盗は十字架の上で変えられた、
イエス様を信じた。
何がこの強盗を変えたのか。

片方の強盗はイエス様をののしっています。
「あなたはキリストではないか。
自分と私たちを救え」

もう片方の強盗はたしなめています。

ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

二人の強盗の共通点と相違点

共通点

強盗、ローマ帝国の法の下で十字架刑につけられている。

愛国者で熱心党でユダヤを愛してローマに逆らって十字架刑になっている。

当初は両者とも罪意識は乏しかった。
国のため、ユダヤの民族のため、正義のためにローマ
に抵抗して十字架刑になっている。
イエス様をキリストと口先で認めていた。
ここでは認めていない、信じていない。
片一方は最後にここからキリストを信じた。
この点が二人の強盗の大きな違い。

①神様を恐れるか否か。

神様を見上げる、恐れる、敬うか否かの違い。

彼らの当初の考えは、

人が悪い、国が悪い、ローマ帝国が悪い、

人ばかりを見ていた。救われた強盗は、人生の終わり、土壇場でイエス様の十字架上の姿を見て、ことばを聞いて、神様を見上げ、敬い、畏敬の念を持つようになった。人生の最後、神の基準、神の光の中で自分を、また世界を見るようになった。

私たちも神の視点、神の基準で自分を見る、人を見ることが大切です。世の中には不義が一杯あります。理不尽なことがあります。世の中だけを見ていると怒りがこみ上げて来ます。世の中を見るだけではなく神様を見上げることです。

神様は人類を、私たちを愛していてくださいます。この哀れな強盗も愛して、その叫びを聞いてくださいます。

②自分の罪に向き合う。神の前の自分を見つめる。人は皆罪を犯している。人を見ていると自分の罪は分からない。この強盗は神を見上げ、イエス様を見て始めて自分の罪がわかった。

われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

汚れた水ばかり見ているとそれが普通だと思う。
透明な蒸留水、純水を見てそれと比較すると、わず
かであっても汚れが良く目立つ。分かる。
イエス様を見つめた時、清いイエス様に触れた時、自
分の汚れ、罪が分かる。

③信仰の告白をしています。

そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」

思い切って、人生最後の最後にイエス様に「信じます、赦してください」と叫んでいます。

決心をすること、一歩踏み出すことが大切。

礼拝に行く、聖書を読む、決心をする、洗礼を受ける。強盗が人生の最後にした最大の良いこと、唯一の良いこと。イエス様に信仰告白しています。

④イエス様から罪の赦しの宣言、神の民となった告知
をいただいています。

イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。
あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

パラダイス＝天国

最も短い信仰告白
信仰のみで救われる
信じるだけで救われる模範。

何もしないで天国に入った
天国を盗み取ったような強盗

⑤ 刑罰、裁きの認識

おまえは神をも恐れぬのか。

おまえも同じ刑罰を受けているではないか。

ローマ帝国の法廷での裁き

神様の法廷での裁き

すべての人は死後、神の裁きを受けなければならない
ことを認識した。

ヘブル9章37～38節

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、
9:28 キリストも、多くの人々の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

⑥救いの方法の認識
悪態をついている強盗

十字架にかけられていた犯罪人のひとりはいエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。

自分と私たちを救え

自分を救うとはどんなことか

(自分の)いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。

マルコ8章35節

自分の命を救う、自分を自分で守る。

自分で自分を救えないのに

自分のプライドを守る、面子を守る

しっかりと自分を握って、自分を離さないでいる
ところを開かないでガードをしっかりとしている。

富める青年は自分を守って、イエス様にお任せにならないで、イエス様から離れて行きました。

ニコデモもあの晩、イエス様に自分の人生をお任せに出来ませんでした。

神様に委ねられない、信じられない。
信じたら委ねて任せることが出来る。

それが出来ない状況
自分で自分を救おうとしている状況。

自分を捨てる

プライドを捨てて自分の罪を認める

自分を守ること、言い訳、自己弁護をやめて

罪を犯している惨めな自分を認める。

沈みゆく自分という船にしがみつかないで

それを放棄して、救いのイエス様に身を委ねる。

イエス様を罵り続けた強盗は
最後まで自己主張をして、ローマが悪い、
自分は悪くないと叫び続けて滅んでしまいました。

同じ強盗人生を送っていましたが
人生の土壇場で十字架の上でイエス様と出会って、
究極の時にも人を愛し、赦すイエス様のことば、姿に
目が開かれて信仰の告白をして天国に移されました。

十字架の上でイエス様は奇跡を行っておられません。
私たちと同じ人として苦しみを受けておられます。
その中でも父なる神様から受けた使命に生き、
最後の最後まで信仰と愛に生きてくださいました。

イエス様は地上におられる時、
みことばを語り、愛の業をされ、力ある奇跡をされました。

多くの方が救われました。

イエス様は十字架の上に於いて、
地上の使命の最後に於いては
説教や力ある業をされず、ひたすら苦しみに耐え、
その中でも赦しの愛に生きておられました。
その姿を見て強盗の目が、こころが開かれました。

あるクリスチャンの方がひどい病になられました。

病気が進行して本当にひどい苦しい状況、
そんな中でも否定的に生きず、苦しい中でも祈り、
信仰によって生きておられました。

患者同士の交わりがあります。この方が積極的に証し
をしたり伝道をされていませんでしたが、この方の生き
様を見て同病の方が励まされていました。

その励まされている姿を家族の人はわかっていました。

私たちはイエス様のような十字架の苦難に遭うことはありませんが、それでも試練、苦難、からだやこころの痛みに会うことがあります。

その時、ただただ主を仰いで信仰によって生きる時、まわりの方がその姿を見て主を求めるようになられることもあります。

主イエス様の十字架の道をたどり、ついて行きましょう。

祈り。